

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2022/4/15

りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ ECB理事会では主要政策金利は据え置きとなった
- ◆ 量的緩和は7-9月に終了との見方を強めた
- ◆ 今後の金融政策方針についての詳細な判断は四半期毎の経済見通しを示す次回6/9会合に先送り

✓ 4月14日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。

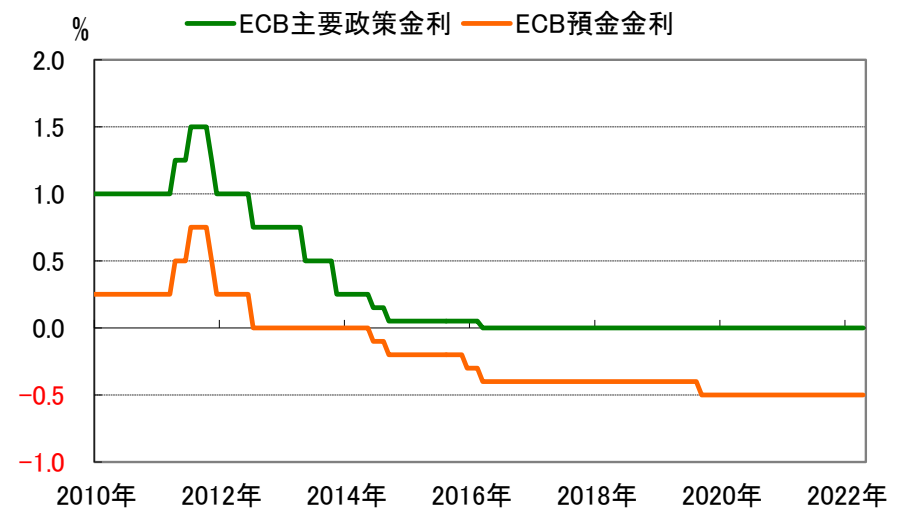
✓ 声明文ではロシアのウクライナ侵攻が、企業や消費者のマインドの重石となっていることを指摘。先行きについては今後の戦争動向や制裁の影響次第として、不確実性の高い状況であることを示唆した。またインフレについてはエネルギー価格が著しい影響を与えているとした。

✓ 債券購入プログラム(APP)の方針は前回と変わらず。4月400億ドル、5月300億ドル、6月200億ドルに漸減。7月以降の方針については、前回の会合以降のデータを踏まえ、7-9月に終了すべきとの見方を強めたとした。利上げについては、APP終了後、「1週間も数か月後もあり得る」としており、早ければ7-9月にも利上げ可能な情勢。

✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）は前回と変わらず。
 (1)インフレ率が予測期間（現在は21-23年）の終わりよりもかなり前に2%に達し、
 (2)残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、(3)基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状レベルで政策金利を維持する。

✓ 詳細についての判断は、四半期毎の経済見通しを示す次回6/9の理事会に先送りした格好。足もとのインフレ高進を受けて、一段の引き締め姿勢を強めるとの観測もあったなかではややハト派と捉えられ、欧州の短期金利が低下し、ユーロは下落した。市場では年内にマイナス金利を脱却するとの見方が織り込まれている。次回会合での利上げに向けたスタンスが注目される。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2022年	2023年	2024年
実質GDP成長率	+3.7	+2.8	+1.6
12月時点の見通し	+4.2	+2.9	+1.6
HICP(消費者物価)	+5.1	+2.1	+1.9
12月時点の見通し	+3.2	+1.8	+1.8

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。